

1 趣旨

この手引きは、「呉工業高等専門学校図書委員会規則施行細則」及び、「呉工業高等専門学校研究報告投稿要領」の原稿執筆に関する必要事項をまとめたものである。

2 投稿者

原稿を投稿できる者は、原則として本校の教員とする。ただし、呉工業高等専門学校図書委員会(以下「委員会」とする。)が認めた者は、この限りではない。

3 研究報告発行・原稿提出期限

呉工業高等専門学校研究報告(以下「研究報告」とする。)の発行は、原則年1回とする。委員会における原稿の受付期限は、原則として毎年4月15日とする。投稿者は、期限までに研究報告の原稿を所属の委員に提出する。

4 原稿内容

原稿の内容は以下のものとし、意味の明確さを失わない程度に、できる限り簡潔にする。また、欧文原稿は特に吟味し、語学の専門家の校閲を経ておくことが望ましい。

学術論文

教育事例研究

内外地留学に関する研究的報告書(紀行文は不可)

科学研究費補助金・その他の研究助成金等による研究成果の報告

5 原稿の書き方

5.0 原稿

原稿は、以下の2種類のいずれかとする。

「手書き・ワープロ形式原稿」(テキスト・ファイル付)

5.1で指定する原稿用紙に手書きまたはワードプロセッサで書きあげた原稿で提出する。

なお、同じ内容の原稿をMS-DOSテキストファイル形式で保存して題目、著者名を明記したフロッピーディスクを添付することが望ましい。

「完全版下原稿(オフセット版)」

5.1で指定する原稿用紙に書いた原稿を、そのまま写真製版ができるように完全な版下の形式で高品質のレーザープリンターで出力したもの。この場合、別紙1の見本を参考にして作成すること。なお、ヘッディング及びページ番号は印刷時に業者が入れるものとする。

5.1 原稿用紙・刷り上がり

原稿は、原則横書きとし、ワードプロセッサ・タイプライター等を用いて浄書する。刷り上がりは、原則として、A4版、横2組みとする。

「和文の場合」

A4縦長・横書き・25字×48行×2段=2,400字詰で刷り上がり1頁分。

和文手書合は、所定の原稿用紙(図書係備付け・A4横長・45字×14行=630字詰・刷り上がり約1/4頁分)を用いること。

国文・漢文等に関するものは、縦書きも可、ただし400字詰原稿用紙を用いること。

「欧文の場合」

A4縦長・横書き・おおそ小文字51字分(大文字31字分)×48行×2段で刷り上がり1頁分。

5.2 ヘッディング(Heading)

ページの上の欄に載せる省略題名(ヘッディング)は、必ず指定する。

ヘッディングは別紙1のHeading欄に記入する。

例.

呉・高専・大学：図書館システムに学情書誌データを取り込むプログラムの試作

5.3 内容の記載順序

内容の記載順序は次のとおりとし、別紙見本を参考に詳細内容は下記項目のとおりとする。

題目(タイトル)・投稿者の所属・氏名
 アブストラクト
 キーワード
 本文
 参考文献
 脚注

5.4 題目(タイトル)・投稿者の所属・氏名

それぞれ和文，欧文の順に記載する。
 英文題目は，前置詞と接続詞以外の第1字目を大文字とする。
 投稿者のローマ字姓名は，姓は大文字，名は小文字とする。
 多数著者の場合は，繰り返し記述する。

例．

図書館システムに学情書誌を取り込むプログラムの試作
 (科) 呉一郎，高専二郎
 (大学) 大学三郎
 Development of Converting Program OPAC using Data of the
 NACSIS CAT
 (Department of) Ichiro KURE and Jiro KOUSEN
 (University) Saburo DAIGAKU

5.5 アブストラクト

アブストラクトは，英単語で100語程度の英文概要(Abstract)を記入する。また，
 できるだけ投稿前に英語の教員にチェックしてもらうことが望ましい。

5.6 キーワード

キーワードは4～5個程度とし，用語は英語，日本語の順でそれぞれ記入する。

例．

Key Words: NACSIS CAT, upload, library automation system
 学術情報センター目録所在情報サービス，アップロード，図書館システム

5.7 本文

((a)) Section は，§1，§2・・・のように番号をつけ，Subsection も2.1，2.2，
 2.1.1，2.1.2のように番号をつける。

((b)) 句点，読点，かっこ，ハイフンなどは原稿用紙の一こまに書き，行を改める場
 合は，最初の一こまを空ける。

((c)) 活字

原則として，刷り上がりの活字の書体と大きさは，次のとおりとする。ただし，必
 要に応じて著者の指定としたい場合は，((d))の指定のとおりとする。

\	見出し	和文	欧文
題目	\	ゴシック体 15 ポ	ボールド体 14 ポ
所属・氏名	\	ゴシック体 11 ポ	ローマン体 11 ポ
アブストラクト	ボールド体 10 ポ	\	ローマン体 10 ポ
キーワード	ボールド体 10 ポ	明朝体 10 ポ	ローマン体 10 ポ
本文	\	明朝体 9 ポ	ローマン体 10 ポ
図・表	和：ゴシック体 9 ポ 洋：ボールド体 10 ポ	明朝体 9 ポ	ローマン体 10 ポ
本文中の図・表の見出し	和：ゴシック体 9 ポ 洋：ボールド体 10 ポ	\	\
章	和：ゴシック体 11 ポ 洋：ボールド体 10 ポ	ゴシック体 11 ポ	ボールド体 10 ポ
節・項	和：ゴシック体 10 ポ 洋：ボールド体 9 ポ	ゴシック体 10 ポ	ボールド体 9 ポ

参考文献	ゴシック体 10 ポ	明朝体 9 ポ	ローマン体 10 ポ
脚注	ゴシック体 10 ポ	明朝体 9 ポ	ローマン体 10 ポ
その他	和：ゴシック体 10 ポ 洋：ボールド体 10 ポ	明朝体 9 ポ	ローマン体 10 ポ

((d)) 書体の指定

本文中の符号(数式)及びローマ字の書体を指定する場合は、下記のとおりとし、いずれも、 $\bar{\quad}$ 、 \sim は朱書すること。また、上記((c))活字表以外の項目で特に指定がない場合は、その他の項目を適用する。

イタリック	ゴシック	ゴシック・イタリック
\bar{A}	\bar{B}	\bar{C}

((e)) ギリシャ文字の場合、 $\bar{\kappa}$ として文字の上にギと朱書する。

((f)) 添字は、 \bar{x} 、 \bar{y} のように、又は、 \bar{z} と朱書し、見やすくする。

((g)) 数式等は印刷に便利になるように注意し、特に文中に挿入する場合、例えば $\frac{b}{a}$ は b/a 、 $e^{-\frac{E}{2kT}}$ は $\exp\{-E/(2kT)\}$ 等のように書く。二重の添字や e の肩にのる添字をつけること等は避ける。

((h)) 0(オー)と0(ゼロ)、a(エイ)と $\bar{\alpha}$ (アルファ)と $\bar{\sigma}$ (シグマ)等のまぎらわしい文字は、はっきりと書き、ゼロ、エイ等と文字の上方に朱書する。

((i)) 大文字と小文字の区が困難な欧文文字は、必ず \bar{C} のように大の字を朱書する。

((j)) 参考文献・脚注については、肩書き文字¹⁾²⁾³⁾...を付ける。

((k)) その他、印刷上著者が特に希望する指定や注意書きはすべて朱書する。

5.8 表、図、写真

((a)) 表及び図は最小限にとどめる。表、図の内容、番号及び説明は、原則として英語で記入する。表はその上に、図はその下に番号及び説明をつけ、表の番号は Table 1、図の番号は Fig. 1 のように記す。日本語による場合は表 1、図 1 のように記す。説明は別紙にまとめて記入してもよい。

((b)) 文字、記号等は、濃い鉛筆ではっきり記入する。

図の中に記す文字、数字等については、前号 5.7 に従うが、朱書する部分については、消しゴムで消える程度の薄い鉛筆書きとするか、又はコピーをとりそれに朱書する。曲線等の墨入れは投稿者が各自で行う。

((c)) 各図面は、別々の紙に書き、投稿者名を欄外に朱書する。

((d)) 表、図、写真の挿入箇所は、本文の左欄外に Table 1 のように朱書する。

((e)) 原図の大きさは、図版の 1.5~2 倍が適当である。図版の仕上がりは、原則として横は 81mm、176mm、(縦はいずれも 251mm 以内)とし、その寸法を図の脇に朱書する。

((f)) 図版の製版に先立つて、原図を十分校正しておく。

((g)) 製版後の修正には原則として応じられない。

((h)) 写真は、図版に準じて取り扱うが、カラー写真の掲載は原則として認めない。

5.9 参考文献・脚注

((a)) 文献の引用は、1)、2)、3~5)などのように通し番号をつける。また、原則として一つの番号について一つの文献を対応させる。記載の方法は、各自の所属学会の習慣又は規定によるものとする。

図書文献の場合：著(編)者、書名(版次)、発行所、西暦出版年

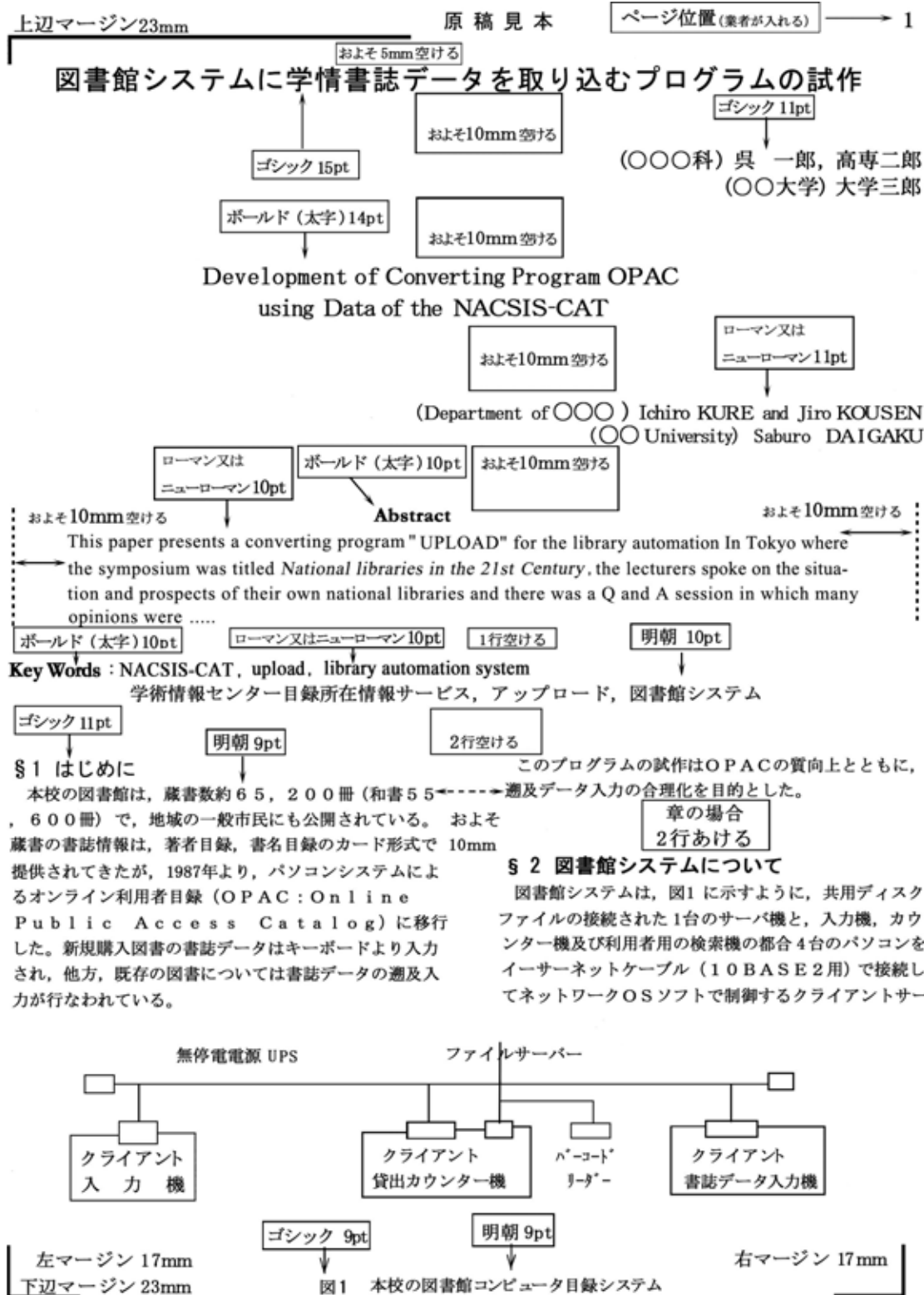
雑誌文献の場合：執筆者名、論文名、雑誌名、巻(号)掲載ページ、西暦発行年

((b)) 脚注は、原則として本文の下に横線を引き、その下に記入する。

脚注記号は、ページごとに、 $\bar{1}$ 、 $\bar{2}$ 等を用いる。

6 原稿の提出

((a)) 原稿(本文・図面・表などすべて)の業者紛失も考えられるので、原稿のコピーをとっておくこと。



§ 9 プログラムの問題点

1行あける

9.1 文字表記問題

ゴシック 10pt

9.1.1 カタカナの半角, 全角問題

ゴシック 10pt

学情データは、カタカナは半角を使用している。一方本校「New図書」はその仕様で、検索項目(表1*の項目)のカタカナの記載はすべて全角となっており、半角のカタカナを含む書誌事項の検索はできない。そのためデータの変換の際、自動的に半角を全角に変換する必要があった。

1行空ける

9.1.2 拡張文字問題

学情の拡張文字(EXT)は、音標符号付文字等691種あり、利用者用端末への移植用文字フォントは

1行空ける

9.2 版次表記方法問題

学情の和、洋書で異なるためまだ対処しきれていない。

1行空ける

9.3 項目の最初のデータ使用問題

学情の1項目に複数のデータが存在するときは、最初のデータを使用した。分類番号の項目については、

1行空ける

9.4 登録番号問題

「New図書」の共有ファイルへの登録(特殊受入)の際、データチェックの機能が弱く、既にある登録

学情データは、カタカナは半角を使用している。一方本校「New図書」はその仕様で、検索項目(表1*の項目)のカタカナの記載はすべて全角となっており、半角のカタカナを含む書誌事項の検索はできない。そのためデータの変換の際、自動的に半角を全角に変換する必要があった。

ゴシック 10pt

明朝 9pt

参考文献

- 1) 学術情報センター, 目録システム利用マニュアルデータベース編 改訂版, 1991.
- 2) 牛島進, わが国における遡及変換の現状, 情報の科学と技術, 42(3) p. 198-203, 1992.
- 3) R. P. ドーア著 松見弘道訳, 江戸時代の教育, 岩波書店, 1970.
- 4) R.B.Dunham, The Scheduling of work, Journal of Li-administration, 1(1) p.73-85, 1980.
- 5) S. Simsova and M. Mackee, A Handbook of Comparative Librarianship, Clive Bingley, 1970.

ローマ字 10pt

